

# 平成 28 年度第 1 回宇都宮市冒険活動運営協議会会議議事録

○日時 平成 28 年 6 月 22 日 (水) 9:30~11:00

○会場 宇都宮市冒険活動センター 会議室

○出席者氏名

- |                                  |                             |
|----------------------------------|-----------------------------|
| ・高橋 英史委員 (市小学校長会) <副会長>          | ・古口 倭子委員 (県キャンプ協会)          |
| ・黒川 浩委員 (市中学校長会)                 | ・黒後 洋委員 (宇都宮大学) <会長>        |
| ・田辺 陽子委員 (市PTA連合会)               | ・沼尾 順市委員 (篠井地区ゆたかなまちづくり協議会) |
| ・五十嵐市郎委員 (市子ども会連合会)              | ・橋本 恵子委員 (公募)               |
| ・櫻井 政義委員 (市ボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会) | ・寺島 玄委員 (公募)                |
| ・北條 成男委員 (市レクリエーション協会)           |                             |

(事務局) 狐塚 章一所長, 有馬 知英課長補佐, 山口 博副所長, 須田 浩太郎指導主事, 矢野 学指導主事

○欠席者氏名

- 金田 俊男委員 (県林業センター)  
坂内 剛至委員 (ネイチャープラネット)

○公開 (傍聴者の数 0 人)

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 委員紹介 役員の選出
- 4 議 題

(1) 報告事項

- ① 平成 27 年度事業報告について (ア学校受入事業, イ主催事業, ウ一般受け入れ事業)  
事務局 : (資料にそって説明)  
会長 : 事業報告があったが, ご意見, ご質問はあるか。
- ② 会長 : その他の報告事項をお願いします。  
事務局 : 土壌調査に関して報告。(口頭で説明)  
会長 : ご質問はあるか。次に協議事項について, 事務局よりお願いします。

(2) 協議事項

- ① 平成 28 年度事業計画について (ア 学校受入事業, イ 主催事業, ウ一般受入事業)  
事務局 : (資料にそって説明)  
会長 : 事業計画案が示されたが, ご意見はないか。特に二重丸の重点課題についてうかがいたい。  
事務局 : では, 1 番の調査研究に関しての結果の提供の仕方に関して, もっと外に見える形でアピールした方がよいのではないかと。今までの広報の仕方についてお聞きしたい。  
事務局 : 資料 P4, 5 で示したものが概要版であり, それを校長会で報告させていただいた。また, センターが発行している所報の中で, 生きる力に関しての調査結果を報告させていただき, 学校や地域, 関係団体, 関係機関等に配布した。  
会長 : 教育効果が上がっているのも, もっとこのよさをアピールした方がよい。これから行おうとしている道徳性についても同様なことがいえる。大学も外に見えていないといった同じ問題点はあるのだが, 広報の側面も含めて考えてもらうともっと広く周知できるのではないかと。よろしく願います。  
櫻井委員 : 資料 P5 の折れ線で示された因子ごとの比較に関して, 青線と赤線は何を示しているのか。  
事務局 : 小中一貫教育の実施の前と後を比較しているものである。その伸びを示しているものである。  
会長 : その他, いかがでしょうか。  
五十嵐委員 : 市子連でも夏休みにキャンプをやっており, 夜の活動でキャンプファイヤーを行っている。そこで子ども達からキャンプファイヤーでのスタンツって何といった話が聞こえてくる。学校でキャンプファイヤーの意義について分からずにやっているところがあるのではないかと。夜の活動は, 学校が主導だと思うが, センター側がうまく連携して, 充実させていってほしい。ただやっただけで終わらせないようにしてほしい。そのようなことが, 道徳性にもつながると考える。是非, 力をいれていただければよいお願い

- する。
- 事務局 : 指導者研修会の折に数年前から夜の活動の紹介をしている。やはりやったことのない先生もいるので、どのように企画して進めていくか伝えている。これからも効果が出るような研修を行っていき、さらなるナイトプログラムの充実を図っていく。
- 会長 : よろしいでしょうか。
- 事務局 : 意義を持たせる研修会を実施していきたいと考えている。
- 会長 : 学校現場からいかがでしょうか。
- 高橋委員 : 教員でも内容によって得意、不得意がある。研修でも取り入れてほしいが、学校としても教育効果が上がるよう進めていきたい。
- 沼尾委員 : 以前と変わった内容として、昨年は10月27日がフェスティバルで、今年度は10月16日に早まっている。日程の変更について伺いたい。
- 事務局 : 今年のフェスティバルは10月16日とした。様々な事業がある時期で、できる限り重ならないよう配慮して日程を決めている。また、学校の日程にも左右され、冒険活動教室が入っていないこの時期であると準備にも時間をとることが可能となる。この時期にまったく事業がない日程を選ぶことは難しく、冒険活動教室の日程も踏まえながら開催日を決めている。
- 会長 : その他ないか。
- 古口委員 : 登山について、山の管理に関して伺いたい。榛名山の頂上に上げているのは、梵天なのか。
- 沼尾委員 : 地域の農業振興で行っており、毎年4月に上げているものである。
- 古口委員 : 実は、梵天の残骸が気になっていた。また、頂上には祠もあり、そこに座って食事をしている人たちがいて、気になってみていた。
- 会長 : 一般利用について何かあるか。
- 寺島委員 : 一般公募事業について、どのような変容をしてきたのか聞きたい。その中で、28年度では何を目標しているのか。また、どのようなところに力を入れていきたいのか、考えを伺いたい。
- 会長 : 最近の活動の傾向ということによいか。今後の方向性と今に至る変容についてということか。
- 事務局 : 小学校5・6年生、中学生を対象にした冒険キャンプは以前から行ってきたが、低学年のキャンプも行ってみてはといった意見もあり、ちびっこキャンプが一昨年より行われるようになった。
- また、以前から行われてきたエンジョイサタデーに関しては、学校週五日制になってから、土曜日の子どもたちの受け皿の一つとして、年に5回から7回開催し、子どもたちを中心に家族の方にも自然体験をしてもらおうと行ってきた。学校週五日制も年数がたち、子ども達の受け皿もできてきたことやスポーツ少年団等もあり、この事業も減少傾向にあり、エンジョイサタデーの代わりとして、3・4年生対象の事業との声が上がった。皆様方のご意見をもとに今年度から、新規事業として提案させていただいた。ただ、今年度は午前中のみ日帰りで行うので、今後、宿泊へ発展していければと考えている。今年度から3・4年生対象の事業が始まるとのこと。検証しながら発展させていく。
- 会長 : P8とP9を見ていただいて、27年と28年を比較してもらおうとわかりやすいのではないか。
- 古口委員 : 事業報告で、一般利用について触れていたが、一般利用の稼働率はどのくらいなのか。日程を決めるに当たって空いている日があまりないと感じている。稼働率について知りたい。
- 事務局 : P10を見て、ゴールデンウィークや7・8月の夏休み、10月の秋休み時期に利用者は集中している。夏などは、6ヶ月前から宿泊の予約が可能であるが、予約開始日には電話対応で追われるほどである。冬は、利用者が少ない状況であり、季節によって違いが見られる。一般利用では、皆さんが楽しく快適に過ごせるよう、活動場所の調整を行っている。
- 会長 : リピーターか新規のお客さんかわかるようになっているのか。昨年度利用の1万4千人の中で、リピーターや新規の数がわかると運営に役立つのではないか。次年度に向けそのような統計の取り方の準備を進めていくのもよいのではないか。
- 五十嵐委員 : 市子連として、利用者のための研修会と一緒に参加させていただいてありがたい。今年度は、市P連の日程と重なっていた。日程の調整を図っていただきたい。
- 事務局 : キャンプファイヤーの活動の仕方も分かる研修であり、日程を他の行事と調整していただくとありがたい。そうすることで、多くの方が参加できるようになる。
- 事務局 : 利用者のための研修会は、今年は6月4日に行った。学校利用の調整を行い、その中で利用しやすい日程で対応させていただいている。

- 会長 : その他、いかがか。  
P11 のアンケートを受けて何かあるか。
- 古口委員 : 以前は、車の乗り入れが大丈夫だったと思うのだが。重い荷物があるときなどは、運べるとありがたい。
- 事務局 : 以前から車の乗り入れは禁止している。ただし、体が不自由な方には許可書を出して対応している。
- 会長 : 状況に応じて申請して許可しているとのこと。その他ないか。
- 寺島委員 : アプローチの仕方として、アンケートにあるマイナス面の荷物運びが大変であるとか、暗い、かび臭い、坂が多いなどは、逆手にとってワークショップにして取り組んでも面白いと考える。一般の全てではなく、切り口のひとつとして考えてはどうか。
- 会長 : 折衷案でもっていけるといいのではないか。真っ暗だから楽しめることもある。すべてが快適になってしまえば、ここの意義がなくなってしまう。ある程度のところでもっていけるとよいのではないか。
- 寺島委員 : リスクと恵みとは同義的だと考える。
- 会長 : 共有できる視点であると考え。かび臭いとか壊れていることをここの味とするのは、つらいところだろうが、活動の本質的に関わる部分では、暗い等のことは貴重である。
- 五十嵐委員 : ここは、不便さ、大変さを売りにしている。それをわかって参加しているはずで、申し込んだ人は分かっているも他の人が分かっていないこともあるのではないか。それを解消するには、入所のオリエンテーションにかかってくる。この施設は不便さ、暗さを体験してもらうことを他の方にもしっかり伝えていくことが必要である。こういう施設ですと分かってもらえるよう説明し、きちんとこれが売りだということをいっていくことが大切であると感じる。夜暗いですので、星を見てください。そんなことを伝えるとアンケートで意見がなくなるのではないか。また、ここの意義が伝わっていくと考える。
- 事務局 : その部分の PR 不足はあると思うが、電話受付時や窓口受付時に話はしてきている。暗いことや車の乗り入れの件、代表者に伝えている。いかに利用者全体に広めていくか。そこが弱い点である。来たときに再確認できるようにしていきたい。貴重な意見でありがたい。
- 櫻井委員 : ボーイスカウトでは、不自由さをいかに体験させるかをやってきている。不自由な分、自分達でいかに工夫するかが野外では大切である。ここでは、何か我慢すれば、また工夫すれば解決が可能な施設なのか。我々は、撤収までを活動としてやっている。その間は、使いやすいように工夫し改善を図って生活している。ただ不自由で我慢しろと楽しむは違うのではないか。
- 会長 : ご意見ということで、よろしいか。
- 沼尾委員 : 要望ですが、最近テレビを見ていると熊の問題が目につく。受け入れ体勢として、熊の出没状況の情報は確認しておく必要があると考える。確認できていれば、個人的には大丈夫だと考える。昨年度は、日光宇都宮道で熊がひかれる事故があった。今年は全国的にも出没件数が多い。山へ入る際、鈴のみでは、心配がある。子どもたちにどう知らせていくかの問題はあるが、林業センターから出没状況は聞いておいてよいと思う。
- 会長 : 貴重な意見ありがたい。  
他にないか。では、これで終わりとする。